



学校だより No.22

令和3年9月13日（月）
泉崎村立泉崎中学校

白 樺

発行責任者 校長 桑原 透

泉崎中スローガン

- 1 明るく元気なあいさつ
- 2 健康・安全
- 3 「自他共栄」
- 4 「一歩改革」

目指す学校像

- 1 安全で安心して生活できる学校
- 2 生徒・教師が楽しめて「今日も来てよかったなあ」と思える学校
- 3 生徒が主体となって活動し、明るく活気のある学校
- 4 学校・保護者・地域が連携し、共に成長していく学校
- 5 保護者や地域から信頼される学校

第2回 全校ボランティア活動 生徒達のすばらしい取り組み！

先週9日（木）に第2回目の全校ボランティア活動を行いました。前回は5月に実施し、約4か月ぶりの活動でした。前回同様学校周辺の道路のごみ拾いを行いました。午前中の雨が上がり

り蒸し暑くなった午後の活動でしたが、生徒達は小さなごみまで一生懸命拾っていました。閉会式で、教頭先生が何人かの生徒に感想を聞いたところ、「楽しかった」「泉崎村のために貢献できて良かった」「もう少し集めたかった」など前向きな感想を述べていました。今年度はこれで最後になりますが、素晴らしい取り組みなので、泉崎中の伝統として今後も続けていく予定です。なお、福島民報新聞と泉崎村の広報にこの活動が紹介される予定ですので、是非ご覧ください。



第6 1回白樺祭実行委員より全校生へメッセージ②

今回は2年生のメッセージです

- コロナウイルスの影響もあり、思うようにはなかなかいかないと思いますが、文化祭を成功させたい気持ちはみんな1つだと思います。「コロナのせいで」じゃなくて、「コロナだからこそ」工夫できるところもあるはずです。一致団結して、準備期間から終わる一瞬まで笑顔でいられるような文化祭にしたいです。 鈴木さん
- 白樺祭実行委員として、泉崎中学校の歴史の中の1つとなる白樺祭をみんなで協力して創り上げていけるよう、一生懸命頑張ります。一人一人の思い出に残るような令和3年度だけの白樺祭にしていきたいです。 木野内さん
- 白樺祭を楽しい文化祭にできるよう、実行委員のみんなと協力していきたいです。また、文化祭準備も積極的に取り組み、楽しんでいきたいです。 瀬戸くん
- みんなで協力して、楽しめる文化祭になるようにがんばりたいです。実行委員として責任を持っていい文化祭だったと言えるように、積極的に取り組んでいきたいです。 大賀さん

- 実行委員として問題なく無事に白樺祭を行えるように、実行委員みんなでがんばりたいです。そして、全校生が楽しかったと思える文化祭にしたいです。 大森さん
- 実行委員として協力してがんばりたいです。 菊地さん
- 白樺祭が成功できるようがんばりたいです。心に残る白樺祭にしたいです。 鈴木 空くん
- 白樺祭がスムーズに実施できるように、みんなで協力して思い出に残る文化祭にしたいです。 鈴木日向翔くん
- 白樺祭実行委員として、今年の白樺祭を盛り上げたいです。また、文化祭を楽しく思い出に残るようなものにしたいです。 小針さん
- 白樺祭実行委員として、全校生が楽しめるような白樺祭をつくりあげたいです。自分の仕事は責任を持って最後までやりきります。 佐川さん

中間テストについての大事なお知らせ

15日(水)16日(木)の中間テストで、ワクチン接種の副反応等により出席停止になってしまった場合の追試験について

- ・出席停止解除後、登校した時に3年学習室にて追試験を行う。(最長24日(金)まで)
 ※ 結果については学年順位等には含めないが、本人の不利にならないように評価に加える。
- ・1・2年生の運動部で追試験日が新人戦と重なった場合の対応
 - ① 室内種目の生徒については、学校に登校した日に追試験を行う。(21・22・24日)
 - ② 室外種目も同様とするが、21日又は22日が雨天順延となった場合は、学校に登校となるので、その日に追試験を行う。
- ・問題用紙は全員回収し、27日(月)以降に返却する。

特集 『発達障害 ⑧』

【No.7 無理解な環境では二次障害が起こる】

発達の特性による悩みや問題は「一次障害」にあたる。発達障害を理解し、適切な対応や支援をおこなえば、生活上の支障をある程度軽減できる。

・無理解な対応

生活上の支障が出ているにもかかわらず、子どもの特性を理解しないで一般的な教育や助言を行うと、子どもをますます苦しめてしまう。

・二次障害

発達の特性による生活上の支障とは別に、ストレスなどによって二次的な支障が引き起こされること。心身の調和がくずれ、社会生活が送れなくなるなど、深刻な事態に陥る。(頭痛などの身体症状、チック症状、いじめを受ける、うつ、適応障害、不登校、引きこもり、不安症、強迫症、フラッシュバックなど)

二次障害が起こってしまうと、発達障害の子はもともとできていたことや得意な事も、自信を失ってしまう場合があります。まわりの人が子どもの発達の特性に気づき、適切に理解し対応して、二次障害を防ぐことがきわめて重要です。

